

2024年度 自己評価報告書

成増すみれ幼稚園

1、園の教育目標

「あかるく たのしく あたたかく」を園の理念とし、子どもたち一人ひとりの育つ力を信じて待つ姿勢を大切に、日々の保育に取り組む。

本園では教育目標として次の3項目を掲げる

- 1、身体を動かすことが好きな子
- 2、発見上手で好きなことが見つけられる子
- 3、友だちや自分の良いところを見つけれられる子

2、2024 度に定めた重点目標や計画、及び取組結果

① 物の管理や後始末の指導について

- 物の管理や後始末という課題について、中心となって活動する「環境委員」を立ち上げた。定期的な話し合いを重ねながら、各学年に議題を降ろし、挙げた内容を職員全体で共有→実施→振り返りのサイクルを実施する事が出来た。また活動内容については、年に三回保護者への報告として手紙を発行した。
- 個人が意識していた内容を共有する事で、新たな視点を持てたり、学びに繋がる事があった。また、クラス間で課題を共有する事で、より統一した指導や環境設定に繋がっていった。
- 物の配置や内容を視覚的に分かりやすく表示することを意識していた。物の管理や片付けに意欲的に取り組めるように前向きな言葉かけをしたり、ゲーム感覚にしたりと意欲的に、自然と身についていくことを意識していた。まだ習慣化していくまで個人差はあるが、引き続き心がけていきたいことである。
- 使い方のモデルを見せることで、子どもたちも使ったら片付けたり、大切に使う姿が見られている。提供する個数やゴミ箱や片付けの箱を近くに置いておくなど環境設定を工夫すると子どもたちのやりっぱなしが少なくなっている。
- 良い変化が見られた一年だったが、まだ定着までには時間を要する。また、物の管理や後始末に加え、教材の扱いやもったいないと感じる使い方をしている（大人からそう見える場面も子どもからしたら好きなものを思い切り作りたい気持ちもあり、その辺りでどのように関わっていくか職員間でも課題のひとつとして挙げている）部分は引き続き課題である。

② 指導計画立案、振り返りについて

- 昨年度書式を変更した計画を用いて、振り返り→次月の計画、修正するサイクルがより定着していった。各クラスリーダーも計画を元にする事を現場に落とし込めるようより意識していた。
- 指導計画をこまめに見直し、その都度追加や修正をしていた。実際に活用していく中で「こうした方がよい」といった意見も出てくるため、形式や例年にとらわれすぎず、その時に合わせて変化させていくことも必要だと考える。振り返りについては第三者が見ても分かりやすく、かつ参考になるように書くことが大切だと感じた。振り返ること、内容も大事だが、記録することも意識して行っていきたい。
- 毎月の会議でざっくばらんにその月の子どもたちの様子を話すことが出来、その中で自然と自分たちが提供したことや声掛けで良かったことを毎回話すようになった。そこから来月はどうかと繋がりのある保育が出来ているため振り返りを大切にしていきたい。

3、教職員自己評価結果及び課題

評価 A よくあてはまる B おおむね当てはまる C 課題がある

評価項目		取組状況及び課題
学年やクラスの様子などを分かりやすく伝えている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● クラス日記や懇談会等、具体的なエピソードやその時々の子ども達の成長を交えながら、様子をお伝えするようにした。エピソードを交えながら伝えることで、保育の場面を実際に見ていない保護者にとって、その時の様子が少しでもイメージしやすかったのではないかと思う。 ● 他学年の懇談会の具体的な内容について、保育者同士共有できると更なる学びに繋がるのでは。
保育室の安全点検、衛生管理に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 外掃除の際に、危険なものがないか、虫や植物などが子どもたちに触れても安全なものなのかを確認していた。 ● 昨年度の反省を活かして、保育室の整理整頓や空気清浄機の洗浄など、細目に意識しながら過ごした。また、自分の身の回りのことだけでなく、子ども達にも衛生面を自分で意識できるように確認をしていた。
保護者への事務連絡等を適切にわかりやすく伝えるようにしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で分かりやすい伝え方を意識するのはもちろん、他の先生方の伝え方や文章を見て、伝わりやすいと思ったものを参考にするようにしていた。(Lk等) また、今年はチーム保育ということもあり、自分が作った文章で伝わるか迷った時には特に、周りの先生に確認するようにしていた。 ● 園外保育の際、行き先や時間を保護者に事前に伝えていなかった。万が一、園外保育中に事故や怪我が起きた際、迎えをお願いすることもあるので、伝えておくべきだと反省した。
保護者からの疑問や相談等に適切に対応している	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 時にこちらの様子を気遣って保護者から相談がしにくい、なかなか話せない場合もあった。基本は面談で詳細を伝えることが多いが、子どもの様子や変化に合わせてこまめに連携をとっていく。 ● 保護者からの疑問、質問、悩みに対し担任間で共有し、情報交換しながら対応する事が出来た。また、園全体での情報共有も意識してきた。 ● まずは保護者の方との信頼関係を優先に、話を聞くようにしていた。こちら結果だけを伝えるのではなく、状況や過程、見通しも含めて伝えるようにしていた。
学年の教育目標、基本方針に沿った活動が展開している	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 月初めにはその月の目標や活動内容、配慮する点等を学年間で共有し、日々の保育の中でのコミュニケーションをとりながら進めてきた。また指針として参考にしながらも、今年の子どもたちの様子、クラスの特徴に合わせて変化させながら適切な保育を探求してきたと感じている。引き続きその時の状況や様子に合わせた保育、活動を提供しながら対応していく。 ● 「なぜこの活動を取り入れるのか」「この活動は今の子ども達に適しているのか」「例年当たり前のようにやっていたが適しているのか」等計画はありながらも常に自問していく。 ● 毎年食育のねらいと内容の薄さを実感し反省に挙げているが、今年も同ような反省が挙げられている。他園の様子や、カリキュラムなどを参考に、すみれで育てたい食育の部分について話し合っていく。

見通しが持てる環境設定をしている	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 物の配置や視覚素材だけでなく、みんなの会や昼食の時間を一定にすることも見通しが持てることであり、どんなことが見通しに繋がるか考えていきたい。 ● 今年のクラスは、特に見通しを持つことで安心出来る子供が多いクラスだった為、より見通しの持てる環境設定を意識しながら過ごした。ホワイトボードには、1日の見通しを細かく分かりやすく掲示することで、子ども達が期待を持って過ごす姿が多く見られた。また、様々な時間を事前にお知らせし掲示することで、子ども達が自分たちで動いたり、伝え合ったりする姿が多く見られるようになった。
知的好奇心を引き出し、高める環境設定をしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちの遊びの姿をよく見て、その時に興味があることを集中して遊べるよう、職員間で話し合いながら臨機応変に環境設定をしていた。その時々子ども達の様子に合わせて環境を変えたり、反省を活かして見直したりすることが出来たことが良かった。 ● 他園への見学や教材研究など自己研鑽し、引き出しを増やしていきたい。 ● 子どもそれぞれの興味の差や遊び方によって反応も様々なため、適切かどうかの判断が難しいが、子ども自身で遊びを展開していく、興味の幅を広げていけるような環境設定を引き続き意識していきたい。
結果を焦らず、ゆったりと待つ姿勢を大切にしている	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達への声掛けや援助がすぐに成長に繋がらないことも沢山あるが、“きっといつか繋がる時が来る”という気持ちで対応するようにしている。(保育を重ねるごとに、自分自身が焦らずに居られるようになってきた) また、時には手を差し伸べ過ぎず、子ども達の気持ちを汲み取り過ぎないことも意識しながら、関わるようにしている。今後も、子ども達の成長を信じながら対応していきたい。 ● 集団の中での個々の対応に悩むことが多かった。それぞれの課題や現状を理解していても”次に進むためにはどうすればいいの?”、“このままでいいの?”と考えてしまうこともあった。スモールステップ、現状維持、出来ることに目を向け、良い所を伸ばしながら対応していくことを引き続き意識していければと思う。
子どもの発想、ひらめきを生かした保育を展開している	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者が環境を整え過ぎるのではなく、子ども達の遊びの姿やアイデアを拾いながら、環境を変えたり遊びが発展していくように声掛けすることを意識していた。 ● 年齢に応じた対応があることを学んだ。色々な材料、色々なアイデアを伝えたくなるが、クラスの段階を考えて提供したり、声をかけたりすることで「自分でできた」喜びを感じられるのだと思った。 ● 発信のしやすい環境を整える。具体例→小さな発想やアイデアに着目し、一緒に広げていけるようにする。
子どもたちのよいところに気づき、成功体験を共有している	A	<ul style="list-style-type: none"> ● マイナスな声掛けよりも、プラスの声掛けが多くなるように意識しながら、良いところや成長を言葉にして伝えていた。また、本人に対してのみでなく、周りの子たちにも友達の良さが伝わるように、全体でも認める声掛けを意識してすることが出来た。それが子ども同士でも認め合ったり、良いところが広がっていく雰囲気につながっていたので、今後も引き続き続けていきたい。 ● 個々を注視し小さなことも見逃さない。担任間でこまめに報告しあう。 ● 言葉にすることで子どもたちにも伝わり子ども同士で褒め合う姿が見られるようになっている。

4、2025年度に取り組むべき園の課題

課 題	具体的な取り組み方法
指導計画立案について (食育、造形、自然遊び等)	<ul style="list-style-type: none">● 花が咲いた後の楽しみ方や遊びへの取り入れ方など、勉強不足だと感じた。(押し花やドライフラワー、飾りづくりなどのコーナーを準備できたらと思いつつ、何もできなかった)● 毎年食育のねらいと内容の薄さを実感し反省に挙げているが、今年も同じような反省が挙がっている。他園の様子や、カリキュラムなどを参考に、すみれで育てたい食育の部分について話し合っていく。
物の管理や後始末の指導について	<ul style="list-style-type: none">● 良い変化が見られた一年だったが、まだ定着までには時間を要する。また、物の管理や後始末に加え、教材の扱いやもったいないと感じる使い方をしているのが気付き。大人からそう見える場面も子どもからしたら好きなものを思い切り作りたい気持ちもあり、その辺りでどのように関わっていくか職員間でも課題のひとつとして挙がっている。● 引き続き課題やプラスの変化が見られた環境設定など、職員間で共有出来る機会を定期的に設け、定着する事を期待する。

学校関係者評価報告書

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが十分でない D 取り組みが不十分である

	評価項目	評価	ご意見ご感想を自由にご記述ください
	自己評価結果の内容は適切であったか	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題をより具体的に記述すると、今後すべきことが分かりやすくなるのではないか。 ● 具体的な内容を分かりやすく伝えて、園、保護者が同じ方向を向く事ができれば、D評価が使われなくなると思う。 ● 「評価の理由」「評価を上げる為に何が必要か」「その為の具体的な提案」それをもとに園としての具体的なTODOに落とし込むこと。また必要なリソースを計上する事。 ● BもしくはC評価をつけた理由や今後の改善点も併せて記入してもらう必要があるのでは。
2.	今後の課題は適切に設定されているか	B	<ul style="list-style-type: none"> ● こども園に移行すると課題が新たに見えてくると思います。次年度以降活かせることは活かし、思い切ってこども園になって変える、新たに追加する項目も大切になってくると思います。 ● 「教育目標」を卒園時に在って欲しい姿を仮定した時、それに至る五年間のフローを組み、年次目標に落とし込む。 ● 内容によっては課題と評価が色々ある為、そこを分けて考えながら進めることが必要だと思います。
3. 上記以外のご意見、ご感想 <ul style="list-style-type: none"> ● 今後 1、2 歳児も入ってきますが、そこでの繋がりへの対応などでも大きく成長すると思いますので、関わり方を楽しみにしております。 ● こども園での新しいスタート、先生方の努力をたくさん感じています。 ● 開かれた園の姿勢が素敵だなと感じました。 ● 評価項目を設定する時に、園の教育目標を達成するために何をしていくのかを意識して決められると良いと思います。 ● 園としてできないこと、これは園ではなく家庭でやるべきことだというのは、はっきりと家庭に(保護者に)伝えていって欲しいと思います。 			